

## 第2A（中）分科会 —子どもの発達に関する課題—

提案主題 生徒の豊かな人間性をはぐくむ取組とそれを支える教頭の役割  
—教育課題に対して組織的に対応ができる教職員集団へ—

司会者	豊後大野市立清川中学校	神志那 一 成
提言者	豊後大野市立千歳中学校	本 庄 徳 彦
助言者	竹田市立荻小学校校長	和 田 三 成
記録者	豊後大野市立緒方中学校	羽田野 浩 司

### 1 協議の柱

- ・小中9年間で子どもを育てる系統性・継続性のある指導とその確立に向けた教頭の役割

### 2 協議の実際

- ・豊後大野市は、市を挙げて小中連携に取り組み、3部会に分かれての小中合同会議など工夫している点がすばらしい。学校によって、学力向上・地域との連携・不登校解消など課題に違いはあるが、小中連携は避けて通れない。乗り入れ授業等「いつかやればよいな」という程度ではなかなか進まないのが、教頭の役割として連絡調整に力を注ぎたい。
- ・9年間を見通した小中一貫教育は大切。中心部では、合同部会をしたら職員が知り合え、連続した教育ができる。周辺部では、職員の連携はされているが保護者も交えたことをしないと、地域の教育自体が成り立たない現状がある。中1ギャップの解消も大きな目的の一つにしているが、なかなか県全体で不登校の数が減らないのは今後の課題と言える。
- ・郡市によって連携の規模が違う。大分市では、賀来小中という先進校をベースに新たに施設一体型の碩田中と3小学校の取り組みが進められ、注目されている。学年部会を定期的に開いて調整し、学校文化を一つの方向に向けていくのは難しい。教頭の役割として、諸会議・部会の「見える化」に努め、共通理解をはかることがとても大切と考える。

### 3 指導助言

- ・ふるさと学習や小中一貫型コミュニティスクールによって生徒の豊かな人間性を育む取組を進めているが、そのカギを握るのは教職員自身。特にミドルリーダーをどう動かし活性化していくかがポイント。ぜひ、教師力の向上を目指してほしい。自分がした方が早くても、ぐっと我慢して仕事を任せることが大切。
- ・ミドルリーダーまたは教頭自身でもいいので、「あんな人になりたい」というモデルを校内につくり、あこがれをもたせるとよい。
- ・人はみんな「3匹のタイ」を持っている。「ほめられたい・認められたい・役に立ちたい」という気持ちに対して、管理職が積極的な評価をしていくと職員を伸ばすことができる。
- ・千歳小中の連携については、せつかくふるさと学習で豊かな心情を育てる取組を進めているので、小中で教育課程の出し合いをしてはどうかと思う。地域の自慢調べなどで小中同じような内容を取り扱っていることが多いが、つけない力は小中で違うものがある。そこを明確にして小中連携を組んでいけば、無駄な重なりもなく、小学校からの学びが中学校につながって新たな力になっていく。ぜひ、教頭のリーダーシップで行ってほしい。
- ・各学校さまざまな課題があるが、解決のカギは、「組織としてどう動くか」にある。みんなが共通理解のもとで同じ動きをすることが大切。